

⑬GAGU (瓦具)

有限会社富岡鬼瓦工房(小川町)

自社の持つコア技術・代表的な製品など

富岡鬼瓦工房

埼玉伝統的工芸品

鬼瓦

古代鬼瓦の由来
白鳳(天智)時代、大友の臣(大友)より、我が国に初めて鬼瓦が導入されました。鬼瓦は建物の瓦を補修・配される際、火災・落瓦・地震から、建物を守るために使われたのが鬼瓦の起源です。

埼玉の鬼瓦
深谷、児玉地方を中心とした地域では、良質な粘土が取れたことから瓦造りが盛んになりました。奈良時代には既に瓦造りが始められたと伝えられています。明治時代から昭和の初期にかけて入籍の小倉田瓦が有名で、川越の瓦造りなどに使われ、雲、菊水、若葉など洗練された鬼瓦が造られていました。

埼玉県伝統的工芸品 鬼瓦

立川流鬼瓦

江戸時代中葉以降になると、蕨川は下町をあいっく火災から守るため、一般市民に瓦の需要を許可し、瓦の需要は拡大しました。それにあわせて鬼瓦も多種多様な形になってきましたが、その中に私の親方もそうだが、立川流という流派が知られます。元々は安土の山川流から移されたと言われていて、この大工集団は、職師を継承して江戸時代後期に大規模な造営をした巨匠、職師の立川一守です。職師を中心とした中部地方を主に社寺建築を手がけ、その依頼に付された緻密な彫刻が工師たちのすばらしい技と美を見ることが出来ます。これら立川一守の残した彫刻には鬼瓦の彫刻も数多くこのまわって、これら彫刻を取り入れて発展させたのが立川流鬼瓦の始まりだと考えられます。これらの鬼瓦は、雲、菊水、若葉などの彫刻が特徴で、彫刻、浮き彫り、透かし彫りの技法を取り入れることによって美術品まで高め、明治、大正、昭和と瓦の需要とあいまって全国に広がってまいりました。

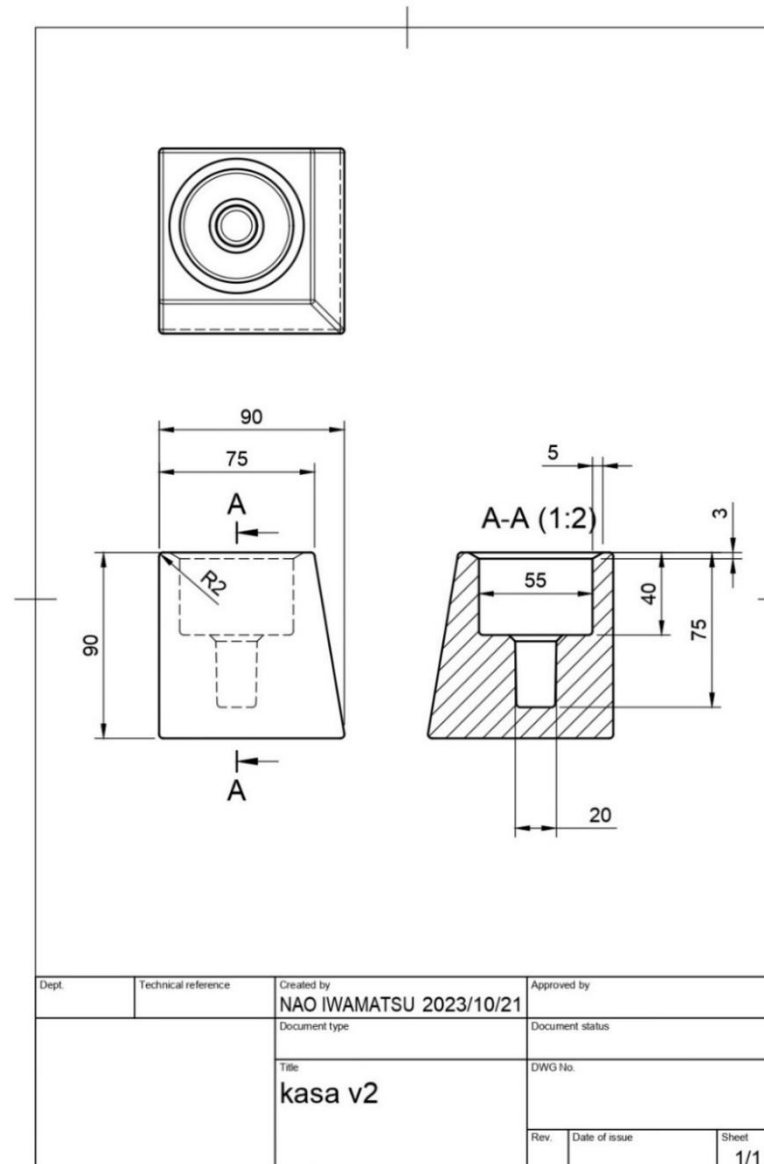
●作者プロフィール 富岡 唯史
1962 埼玉県小川町に生まれる
1981 富岡鬼瓦工房(有限会社)に4年間勤務する
1995 埼玉鬼瓦工芸士(唯史)認定
2001 職師(立川流)から「立川一守」の職師
2002 瓦、漆、漆器、漆器
2007 瓦職を専門に専攻
職師(立川流)から「立川一守」
2009 日本職人の会 会長
2010 瓦、漆器デザイン(立川流)「立川流」(立川流)「立川流」
2012 職師(立川流)から「立川一守」の職師
職師(立川流)から「立川一守」の職師
2013 職師(立川流)から「立川一守」の職師
2015 職師(立川流)から「立川一守」の職師
2016 職師(立川流)から「立川一守」の職師

富岡鬼瓦工房 住所 埼玉県小川町高井426-1
電話 0493-72-1436 fax 0493-74-5778

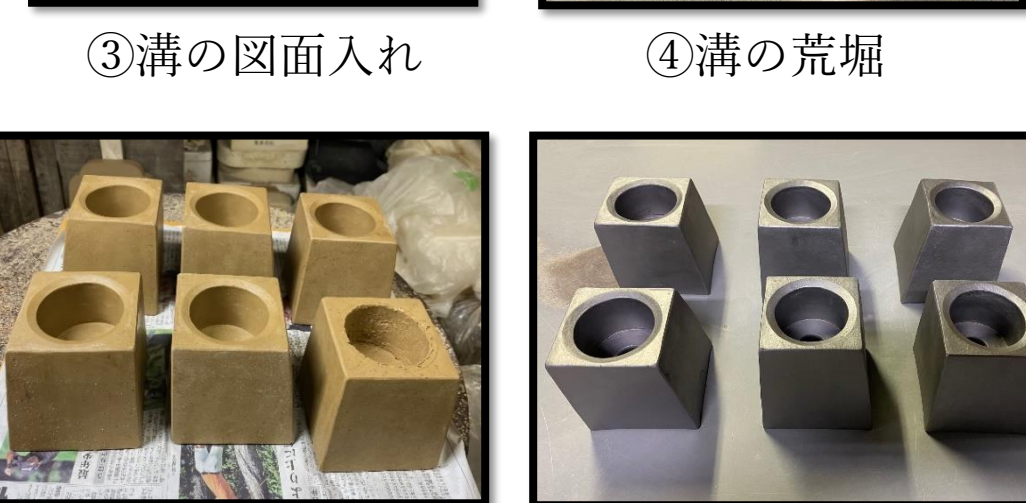
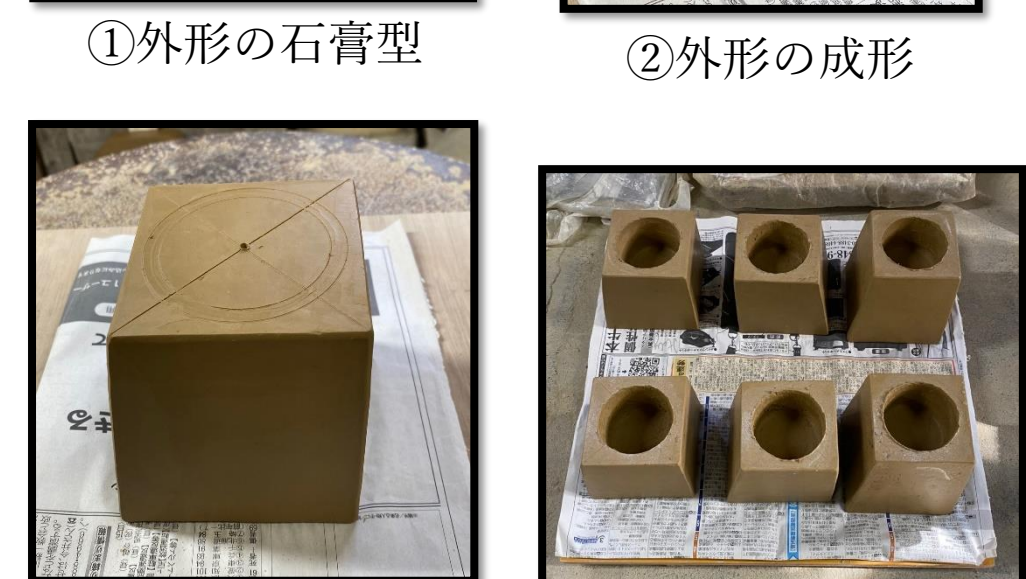
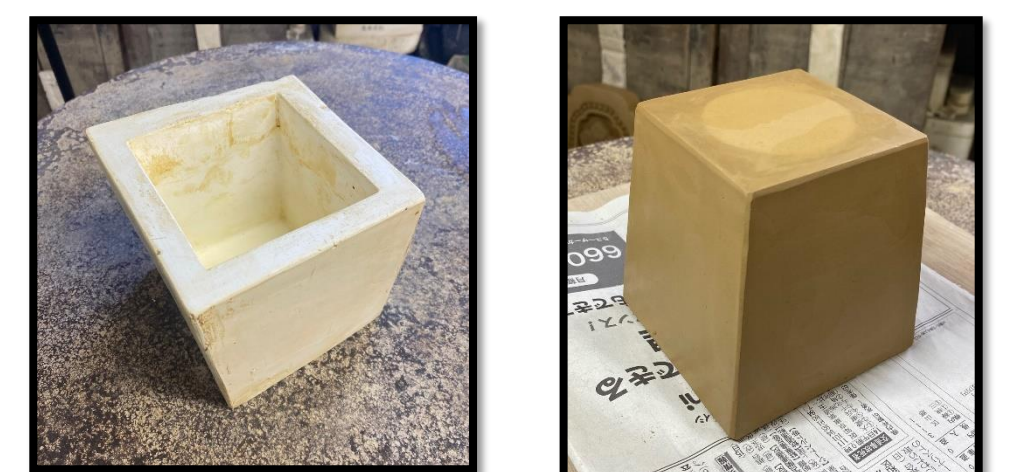
富岡鬼瓦工房では社寺、仏閣、民家の鬼瓦から文化財の復元、装飾瓦まで手作りで制作しています。設計から制作、鬼瓦にかかわる様々なニーズにお答えしています。鬼瓦制作では、一から手作りで鬼瓦を作る方法について親切に教えています。

試作品の概要

日本の伝統建築に使われている和瓦(燻し銀)の素材を使い、「瓦具(がぐ) | GAGU」のブランド名を頂き、和テイストでモダンなかたちに制作してみました。



傘立ての製造工程



担当デザイナー

岩松直明 NAO IWAMATSU | プロダクトデザイナー
情報機器メーカーにて、業務容器プロダクトデザインやクリエイティブを軸にした新規事業企画、ビジネスデザインを担当。2020年からはデザインインベーションスタジオにて、様々な企業の新規事業創出や製品デザインを担当。また、2014年からデザインユニットAkkiとして活動を開始。想いをもった創業者や社員5名の零細企業、新しい分野にチャレンジする中小企業の方々に対し、デザインを軸に新しい商品開発やブランド開発をサポートするコンサルティング業務を請け負う。グッドデザイン賞など国内外での受賞歴多数

問い合わせ先

富岡鬼瓦工房
担当: 富岡唯史
TEL: 0493-72-1436
Mail: tomioka@kca.biglobe.ne.jp